

## 第4期鹿児島県教育振興基本計画検討委員会（第3回）について

### 1 開催日時・場所

日時：令和5年11月13日（月） 午後3時から午後5時まで

場所：県行政庁舎 16階 教育委員会室

### 2 出席委員

有倉委員，萩原委員，岩橋委員，大脇委員，南委員，原田委員，木志委員

### 3 協議内容

#### ○ 第4期鹿児島県教育振興基本計画（案）について

- ・ 一般的な理解としては子供の人権を配慮した場合に、「ども」は、ひらがなにするとするのは一般的な理解だと思うが、公用の表記ということで漢字表記とすることについては了解した。
- ・ 今回、国が打ち出しているのは、「ウェルビーイングの向上」だと思う。ウェルビーイングに関する記載事項を整理し、少し噛み砕いて、それぞれの項目ごとに記載すべきではないかと思う。
- ・ 大人が、子供たちの教育に携わる中で、ウェルビーイングの大切さを大人も学んでいくことが大切だと思う。そのためには、「開かれた学校づくり」や「学校における働き方改革の推進」が重要になると考える。
- ・ 具体的施策のところでは「ウェルビーイング」という言葉が出てきているが、使い方が定まっていないと感じる。「ウェルビーイング」の言葉の使用について、統一感を持たせる必要がある。
- ・ 食育の推進は非常に重要だと思う。親も時間のない中で子育てしているので、家庭の負担にならないようにしてほしい。学校、家庭、地域が連携して推進していくことが大切だと考える。  
また、食に関する活動をしていると、一次生産者が疲弊していると感じる。ぜひ、がんばっている生産者の姿を子供たちに見せ、体験として知ってほしい。
- ・ 「チーム学校」という言葉があるが、学校によって差があるように感じている。学校によって差がでないような取組を推進してほしい。
- ・ 「不登校児童生徒の社会的自立に向けた組織的な継続的支援」とあるが、社会的自立というのは高校段階でよく使われるが、児童生徒という括りが飛躍しているように感じる。発達段階を踏まえた表現にする必要がある。

- ・ 社会に開かれた教育課程の実現に向けて、高校段階の取組として記載されているが、社会に開かれた教育課程は、義務教育段階でも求められていることであり、記載を工夫する必要がある。
- ・ 起業家教育の推進について、ビジネスノウハウの色が少し強いように感じる。起業家教育で培う、リーダーシップや責任能力、対人能力など非認知能力の育成といった部分をどのように高めていくのか記載してもよいと思う。何を持って生きていくのかを自分で考え、生き抜いていく鹿児島の子供たちであってほしいため、そういった非認知能力についてもアウトプットしてほしい。
- ・ 国際理解教育については、記述されている文章からは、世界に向けて羽ばたくといった印象が強い。それも大切なことであるが、文化の異なる人たちと一緒に協働していくといったニュアンスを出せるとよい。
- ・ 地域によっては、日本語教育の必要性が増してきていると考える。日本人の国際理解教育は記載されているが、外国人の日本語教育について記載する必要があると考える。
- ・ 「安全安心な学校づくり」、「学校における働き方改革」に関連して、最近、学校現場でもカスタマーハラスメントで、無理な要求をしてきたり、法的な枠を超えた要求をしてきたりすることも増えてきている。スクールロイヤーなどの活用もされているが、企業等でも行われている「カスタマーハラスメント防止指針」を学校でも定めて公表するといった取組は有効だと考える。
- ・ 部活動の地域移行について、計画の中で言及されているが、働き方改革も含めて、さらに推進していく必要がある。
- ・ 家庭教育支援とは、地域社会との関わりで親子の主体的な育ちを支えていくことであり、家庭の教育力が低下しているから親を教育するというのではない。「家庭の教育力の低下」についての記載は慎重であるべきである。
- ・ 生涯学習、社会教育において「ウェルビーイングの向上」については、記載されているが、もう一つの視点である、「未来の社会の創り手の育成」の視点が足りないと感じる。それは、社会教育の視点が抜けているからだと考える。社会教育という文言を入れて、社会の担い手となる力を育むといった内容の記述を追加することはできないか。
- ・ 生涯学習環境の充実に、公民館の充実についても記載していく必要があるのではないか。
- ・ 社会教育の指導員を養成していく観点も大切なので、指導者の養成等に関することについて検討してほしい。